第４章　活動の柱と取り組みの方向性



基本目標１

お互いの力を活かせる 人づくり

活動の柱１　お互いに認め合う 心を育む

□現状と課題

地域の行事や交流の機会が減少し、住民同士が顔を合わせる機会も減っています。また、価値観や暮らし方の多様化、隣近所との関わりを負担に感じる人が増え、地域のつながりが薄れつつあります。このような中、ひとり親や障がい者、介護者家族の中には、地域で偏見や疎外感を感じている人もいます。

隣近所との付き合いや地域活動に関する意識は地域によって差がありますが、多様な価値観を認め合い、障がいの有無に関係なく、気軽に出会い、無理なく自然につながれる風土づくりが必要です。また、こどもの学びを通して、保護者や地域の大人の福祉への理解や関心を深めることが求められています。

□ねらい

地域の行事や交流が減少し、自然に生まれていたつながりが希薄になっているため、住民ひとり一人が地域のことを身近に感じ、地域への関心や福祉への理解を育みます。

取り組みの方向性 1

自分の地域の福祉課題に気づく住民を増やし、福祉の心を広げます

地域には、多種多様な人々が暮らしています。一人ひとりが、向こう三軒両隣の輪を広げ、自治会や小学校区といった地域の中で、顔見知りや顔なじみを増やしていきます。また、こどもと地域の大人が、地域の中で“共に育ち合う”ことを大切にした取り組みを進めます。

地域	企業等
住民一人ひとり、地域ぐるみの取り組み（例） ・あいさつを通じて顔見知りになる ・向こう三軒両隣と気遣いあう ・自治会活動に参加 ・多様な世代や立場をこえた人との交流、共に学び、共に活動（例　バリアフリー体験） ・遠慮や偏見をなくす ・交流会やボランティア講座、懇談会等の開催 ・子ども福祉委員活動の推進	**市民活動・ボランティア団体、企業、社会福祉法人等の取り組み(例)** ・地域のボランティア活動や行事等に企業ぐるみで参加 ・住民向けに団体や企業等の専門性や強みを活かした講座・体験等の開催 ・福祉のお仕事体験会への参画 ・遠慮や偏見をなくす取り組みを住民と共に行う

市社協

市社協としての取り組み（例）

・つながりの大切さを体感する機会の創出　　・地域や活動を知る機会を創出
・障がい理解を図る講座の開催　　・若者対象の福祉のお仕事体験会の開催
・主体性を育む機会の創出（“まずは小さく始めて、やってみて、振り返る”を大切にする）
・こどもから大人まで参画できるボランティア講座等の企画実施や地域開催の支援
・企業や社会福祉法人等の強みを活かした福祉講座へのコーディネート
・企業の従業員等が参加しやすい形を整え、情報を届ける

□ ５年後のまちの姿

・住民同士のつながりが強まり、気にかけ合う関係が広がる
・こどもの学びを通して、保護者や地域の大人の福祉への関心や理解が深まる

□ 評価指標

住民の福祉理解が高まった割合

取り組みの方向性 ２

見守りや支え合うことの共感を育み、お互いに助け合いのできる関係づくりを広げます

隣近所や自治会の中でのさりげない見守りや声かけが安心につながることの理解を広めます。

地域

住民一人ひとり、地域ぐるみの取り組み（例）

・福祉委員や民生委員による日常的な見守り（注９）
・公民館等にて福祉講座の開催
・支え合いマップづくり（注 未定稿）
・福祉委員と自治会長等との情報交換会
・あったかメッセージの募集（注 未定稿）
・福祉委員同士の茶話会

企業等

市民活動・ボランティア団体、企業、社会福祉法人等の取り組み(例)

・専門職の知識や経験を活かした地域の活動者への助言や情報提供
・企業ぐるみで福祉活動への理解促進や意識啓発

市社協

市社協としての取り組み（例）

・福祉委員・民生委員等合同研修への支援
・地域の見守り活動者（福祉委員、民生委員、自治会長等）同士の情報交換・交流の場づくり
・地域や職場等に出向き、対話を交わして困りごとに気づくポイントを発信し、見守りや支え合い活動を理解する機会をつくる

(注9)日常的な見守り

対象者の方へのあいさつや声掛け、対象者のお宅の郵便受けや洗濯物など、心配りをすること。

□ ５年後のまちの姿

・福祉委員のみならず、自治会長や地域を支える方々も、見守りや支え合う活動の大切さを理解する
・身近な集まりの中で、助けたり助けられたりできる関係づくりが広がる

□ 評価指標

見守り・支え合い活動に関する意識変化の割合

活動の柱２　みんなが気軽に参加し、活動できる地域をつくる

□現状と課題

地区では、福祉活動者の高齢化が進み、役割が一部の人に集中するなど人材不足が課題となっています。さらに、地域活動に関心はあるものの、知り合いがいないことや活動の内容・雰囲気が分からないことなどから、一歩を踏み出しにくい状況があり、新たな人が参加しにくい面があります。

活動を継続していくためにも、「楽しい！」や「嬉しい！」が生まれる工夫や「ありがとう！」と伝え合える環境をつくり、福祉活動への参加のハードルを下げることが求められます。また同時に、一人ひとりができることや得意なことを活かし、無理なく活動に関われるよう参加の入口を広げ、気軽に参加できる機会や雰囲気をつくり、交代もしやすい環境を整えていくことが求められています。

□ねらい

活動する仲間が広がりにくくなっているため、コーディネーションの力を活かし、参加の入口を広げ、活動できる人を増やす

取り組みの方向性 ３
誰もが参加しやすい地域活動の入口を広げます

知り合いからの紹介や誘われると、活動に参加する住民は少なくありません。活動者が中心となり、初めて参加する人が入りやすい雰囲気づくりや無理なく活動できる機会をつくり、地域のいろいろな集まりに参加し、つながりを広げる活動を後押しします。

地域

住民一人ひとり、地域ぐるみの取り組み（例）

・「参加者（お客様）」から「つくる側」へのステップ（小さな役割をつくる）を理解し、実践する
・誰もが気軽に活動できるよう環境を整える（回数、時間など）
・ちょっとしたボランティア活動の企画

企業等

市民活動・ボランティア団体、企業、社会福祉法人等の取り組み（例）

・企業、社会福祉法人の人材、場所、物品等を活用した地域貢献
・企業、社会福祉法人の広報媒体を活用した地域活動の情報発信

市社協

市社協としての取り組み（例）

・多様な人が「楽しい！」「嬉しい！」と参加したり、「ありがとう！」と伝え合う福祉活動を発信
・関係機関や団体と情報交換を行い、世代やライフスタイルに合わせた活動、楽しさや体験的要素を入れたアイデア等を出す
・活動団体に多様な人が参加しやすくなる具体的メニュー等を届ける

□ ５年後のまちの姿

・地域の中に参加しやすい形や入りやすい雰囲気が整い、気軽に活動できる

□ 評価指標

活動の輪を広げるために、環境を整えた事例

取り組みの方向性 ４
趣味や特技など多様な分野で活動できる人材を増やします

趣味や特技が、地域の様々な場所でボランティア活動につながることを広めます。好きなこと、得意なことで、地域福祉活動に参加する人を発掘し、活動につなげます。

地域

住民一人ひとり、地域ぐるみの取り組み（例）

・趣味や特技をもった住民の発掘
・サロン等地域の集う場へ参加募集

企業等

市民活動・ボランティア団体、企業、社会福祉法人等の取り組み(例)

・従業員にボランティア休暇の取得を推進
・技術を活かし地域でのボランティア活動

市社協

市社協としての取り組み（例）

・活動希望者に応じて、地区や福祉事業所等を紹介、コーディネート
・趣味や特技を活かす場として、ちょっとしたボランティアなどの気軽に参加できる地域活動の開発

□ ５年後のまちの姿

・趣味や特技を活かし、参加や活躍の機会が広がる

□ 評価指標

趣味・特技を活かし新たに活動した人数



基本
目標２

共に生きる力を高める つながりづくり

活動の柱３　居心地のいい場所をつくり、世代や立場をこえてつながる

□現状と課題

少子高齢化や核家族化、障がいに対する理解不足、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯の増加、価値観の多様化、生活不安の増大、個人情報保護の観点から地域社会のつながりや地域に対する関心が希薄化してきています。

そのような中で困りごとを抱えていても、支援の必要性を感じていない人や助けを求めることをためらう人もいます。本音がこぼせる関係を築き、つながりを実感することで気軽に相談できる環境や共に生きる力を高めていくことが必要です。また、世代や立場、障がいの有無に関わらず住民同士が出会う機会、集う場所が求められています。

□ねらい

地域でつながりを実感でき、困った時に声を上げやすい関係をつくるため、多様な人が安心してふれあえる場をつくります。

取り組みの方向性 ５

世代や立場をこえて、交流の楽しさや居心地の良さを感じながら住民参加を広げます

地域住民が中心となり、多様な人との出会いやふれあい、学びあいの機会をつくります。また、こどもの頃から、世代や立場をこえて人とのつながりを感じられる機会をつくります。

地域

住民一人ひとり、地域ぐるみの取り組み（例）

・ふれあい福祉まつり等既存の活動で多世代交流
・地区社協、自治会や町内会等の情報共有や地域への情報発信。イベント時の協働
・多文化交流の企画、多文化祭への参画
・住民が集う場を立ち上げる（年齢問わず）

企業等

市民活動・ボランティア団体、企業、社会福祉法人等の取り組み(例)

・団体の特技を活かした活動
・企業の強みを活かした活動
・従業員にボランティアや福祉活動の参加呼びかけ、活動する団体に物や場所、資金を提供

市社協

市社協としての取り組み（例）

・地域での多文化交流等を支援
・コーディネーションの考え方や手法を学ぶ研修の開催
・いろいろな居場所の存在と運営ノウハウの情報を広める

□ ５年後のまちの姿

・身近な地域に居心地のいい場所が増える
・人と人、人と地域がつながり、住民の受援力（注未定稿）が高まる

□ 評価指標

世代や立場をこえて学び合った事例

取り組みの方向性 ６

安心して語りあうことでお互いを理解する機会を増やし、地域で暮らす一員として新たなつながりを広げます

困りごとや生きづらさを抱えている人の悩みを共有したり、情報交換することでお互いを理解し、孤立感を解消します。また、気軽に話せたり、相談できる関係や機会をつくり、困りごとの受け止めや橋渡しができるよう支援します。

地域

住民一人ひとり、地域ぐるみの取り組み（例）

・必要な人に情報を届ける
・安心して話せる居心地のいい場所に参加する
・お互いを理解し、困りごと等の受け止めや専門職に橋渡しをする

企業等

市民活動・ボランティア団体、企業、社会福祉法人等の取り組み(例)

・情報交換会への参加を通し、当事者団体の横のつながりをつくる
・情報交換会や交流会等の開催

市社協

市社協としての取り組み（例）

・情報交換会や交流会など話せる機会をつくる支援
・困りごとや相談ごとの受け止めや橋渡しできる人を育てる
・ピアサポーター（注10）の紹介、当事者や活動者のエンパワメント（注11）力が高まるような支援

(注10)ピアサポーター

同じ障がいや病気を抱える人、その家族等が、ピア(仲間)として、自分の想いや経験を生かして、悩みや不安を抱える人に寄り添い、支える人。

(注11)エンパワメント

本人や地域の人が自信を持ち、自分で選び行動する力を高めていくこと。

□ ５年後のまちの姿

・世代や立場をこえて、「顔見知りの人」「声をかけ合える人」が、地域の中に増える

・暮らしのちょっとした困りごとの受け止めや橋渡しができる人が増える

□ 評価指標

居心地のいい場所をきっかけにして、相談ができた事例

活動の柱４　協働と発信を広げ、活動を生み出す

□現状と課題

SDGｓが社会に広がり、企業や社会福祉法人の社会貢献活動に取り組む企業が増えています。しかし、地域や団体等とのつながりは十分ではなく、企業や社会福祉法人等の具体的な取り組み内容や地域側のニーズに関する情報を広めていくことが求められています。

また、現役世代のボランティア参加の機会を与える企業の取り組みや、企業や社会福祉法人等も地域の一員として強みを活かした活動が期待されています。

□ねらい

住民が安心して暮らせる地域づくりのために、企業や社会福祉法人等も地域の一員としてお互いの力を活かして取り組みます

取り組みの方向性　7

幅広い関係機関・団体、企業等の強みを活かして、地域福祉活動を広げます

企業や社会福祉法人等と地域の人が顔の見える関係をつくり、それぞれの強みをかして、地域の課題を共有し、できることを一緒に考え活動します。

地域

住民一人ひとり、地域ぐるみの取り組み（例）

・地域の困りごとに対し、企業や社会福祉法人等と一緒にできることを話し合う

企業等

市民活動・ボランティア団体、企業、社会福祉法人等の取り組み(例)

・従業員に地域参加の促進
・社会福祉法人等が地域の話し合いの場に参画し、地域と一緒にできることを考える

市社協

市社協としての取り組み（例）

・社会貢献活動を啓発する
・企業、社会福祉法人などが地域と一緒にできることを話し合う機会をつくるなど支援する
・関係機関や団体等と情報交換や意見交換を行いながら、地域と企業等が一緒に活動できる取り組みについてネットワークを活かしてアイデアを出す

□ ５年後のまちの姿

・企業や社会福祉法人等と地域が顔の見える関係ができる
・見守り支え合い活動を我がごととして捉え、世代や職域をこえたつながりや地域福祉活動が生まれる

□ 評価指標

強みを活かした新たなつながりや取り組みの数

取り組みの方向性 ８

世代や立場に合わせた広報媒体を活用し、新たなつながりをつくります

活動の情報や参加のきっかけが得られにくく、活動に結びつかないことも少なくありません。多様な人たちに情報が届くよう、様々な広報媒体を活用し、気軽にアクセスできる環境を整えます。また、若者が福祉に興味を持ち、参加してみたいと思えるような発信にも力を入れます。

地域

住民一人ひとり、地域ぐるみの取り組み（例）

・世代や立場をこえて、若者が高齢者に教えることで持ちつ持たれつの関係になる（例 ICT技術など）
・必要な人に情報を届ける
・学校の部活動等による「地域福祉活動PR」

企業等

市民活動・ボランティア団体、企業、社会福祉法人等の取り組み(例)

・地域や学校等とのつながりを構築し、団体や社会福祉法人の情報を提供する
・団体や企業の広報媒体を活かし、多様な世代に合わせた方法で情報を発信する

市社協

市社協としての取り組み（例）

ボランティアや福祉の情報を集約し、市社協の広報媒体を使って情報を届ける仕組みをつくる
・団体や機関等と情報交換の機会をつくり、情報を収集する
・多様な世代に合わせた方法で情報を発信する

□ ５年後のまちの姿

・当事者団体等の広報力が強化され、多様な人に情報が届く
・情報媒体を最大限に活用することで、多様な人の福祉活動への興味関心や参加意欲が高まる

□ 評価指標

情報発信ツールを工夫し、活動の機会が広がった事例



基本
目標３

お互いさまを実感できる 地域づくり

活動の柱５　支え合いで、心の豊かな暮らしをつくる

□現状と課題

価値観や暮らし方の多様化、隣近所との関わりを負担に感じる人が増え、地域のつながりが薄れています。一人ひとりが無理なく出来ることを見つけて、地域全体で見守り、支え合える関係を広げていくことが必要です。

また、外国人市民も地域の一員として、地域を支える大きな力を持っています。一緒に地域をつくる大切な仲間として、お互いさまの地域をつくることが求められます。

□ねらい

どの地域でも誰もが安心して暮らすために、住民、団体、関係機関がネットワークを築き、支え合い活動の輪を広げる

取り組みの方向性 ９

お互いさまを実感できる関係性を地域に広げます

隣近所や自治会内で行われている助け合いを大切にし、地域特性に合わせた支え合いのネットワークを広げます。

地域

住民一人ひとり、地域ぐるみの取り組み（例）

・必要な人に困りごとの受け止めや橋渡しができる人や場の情報を届ける
・「できる人」が「できること」を「できる範囲」で参加できる環境を作る
・住民同士が顔の見える環境作りを意識する

企業等

市民活動・ボランティア団体、企業、社会福祉法人等の取り組み（例）

・外国にルーツを持つ人が地域とつながる機会をつくり、交流の協力
・空きスペースを地域の交流の場所として提供する
・日頃から地域への声掛けや、活動に参加

市社協

市社協としての取り組み

・地域の「やってみたい」を一緒に取り組み、「困った」を把握して関係機関につなぐ
・地域の取り組みや活動事例を紹介し、広げる
・地域の支え合いの仕組みや体制づくりについて、好事例を地域へ発信

□ ５年後のまちの姿

・住民同士の支え合いでちょっとした困りごとが解決できる
・誰もが無理のない範囲で経験や力を活かして、地域の支え合いの輪が広がる

□ 評価指標

地域の中でちょっとした困りごとの受けとめや橋渡しができた事例

取り組みの方向性 10

災害時にも発揮できるつながりを目指した 見守り支え合い活動を広げます

災害時の対応がスムーズに行えるよう、自治会や地区の防災関係者と福祉関係者が顔を合わせる機会をつくります。

地域

住民一人ひとり、地域ぐるみの取り組み（例）

・見守り活動について情報交換
・日頃のあいさつ、交流でお互いを知る機会をつくる
・自分にできることを知る
・福井市総合防災訓練への参加（障がい者や外国人市民も一緒に）
・防災に関する講座に参加する

企業等

市民活動・ボランティア団体、企業、社会福祉法人等の取り組み(例)

・福祉避難所について情報提供
・従業員等に地域の防災活動への参加を促進
・災害時に使える施設、車両、物資をあらかじめ確認
・外国人市民や多世代の人と対話をしながら避難ルートを考える

市社協

市社協としての取り組み（例）

・行政や福祉サービスへのつなぎ役として活動する人同士の情報交換
・各地区の見守り、防災の取組みを共有し、地域活動に活かす
・地域の取り組みを広報

□ ５年後のまちの姿

・災害時の安否確認がスムーズになる
・万が一の時、隣近所同士や自治会内で、避難の呼びかけなどができる

□ 評価指標

普段の見守り活動を地域防災に活かした事例